

<課題>

- ・学力調査において、全体的に全国平均をやや下回っている。
- ・既習事項の定着が不十分で、知識を活用して予想することが苦手である。
- ・自分で予想したり、観察や実験で得た結果を整理して考察したりするなど、科学的事象について説明、表現する力が不十分である。

<特に育成を目指す資質・能力>

- ・基礎的な知識・理解の定着を図る。
- ・科学的事象について表現する力を育てる。

<指導方法・体制の工夫>

- ・観察や実験をするときに、問題把握—予想—実験・観察—結果の整理—考察 を確実にいき、理科の見方・考え方を育てる。
- ・予想、考察やまとめの段階で児童が考えを表現する活動を大切に、根拠をもって自分の考えを表現する力を養う。

3年

- ・実験や観察においては、児童の経験などから予想したり、見通しをもたせたりすることで、科学的な見方・考え方を育てる。
- ・まとめや観察の仕方を丁寧に、繰り返し指導し、自分の言葉で表現する力を身に付けさせる。

4年

- ・一つ一つの実験や観察について、問題把握—予想—実験・観察—結果の整理—考察 のサイクルで学習を進め、科学的な見方・考え方を伸ばす。
- ・単元の終わりには、小テストやまとめのプリント教材等に取り組みせ、知識の定着を図る。
- ・実験用具の準備、片付けを児童主体で取り組ませる。正しい実験用具の扱い方は実際に体験して学習することに加え、ICT教材を効果的に用いる。

5年

- ・児童の興味を引き出すような問題提示を行い、問題把握—予想—実験・観察—結果の整理—考察 の過程を大切にして、科学的な見方・考え方を伸ばす。その際、条件制御が身に付くように指導する。
- ・科学的な思考を知識として理解しないよう、実験方法、計画を児童たちに考えさせ、理由を説明させていく。また、ただ実験を行うのではなく、その実験から何がわかるか見通しをもたせる。
- ・ICT機器を活用していく。タブレットを使って記録したり、自分の考えを表現したりできるようにする。

6年

- ・基本的な内容を確認しながら実験や観察を行う。実験を行う際には予想を立てさせ、見通しをもって学習に取り組めるようにし、結果に対して自分の考えを書く。
- ・問題を解決するための実験方法について班で話し合い、自分たちで考えた方法で実験し、結果を導き出させることで、主体的に学習に取り組めるようにする。